

つながるヒトの和 復興プロジェクト気仙沼 ニュースリリース vol.56 「子どもたちの希望を絵に」

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 (会長 若林恭英/所在地 東京都新宿区/以下 SVA) は、宮城県気仙沼市に拠点を置き、壊滅的被害をもたらした東日本大震災の被災者支援を行っています。

絵を描くことを通して

年末年始の冬休みに、神奈川県横浜市の鶴見大学の協力のもと、気仙沼市立大谷小学校で行われた学習支援「まなび一ぱ」。まなび一ぱには、1日あたり約100人の子どもが参加し、子どもたちは、鶴見大学の教員や学生たちと一緒に冬休みの宿題を行いました。その期間中に、SVAからも子どもの心のケアのプログラムとして、「Book for the Future 子どもたちが描く声」を実施しました。

「絵を描くことを通して、普段、子どもたちが言葉にできない感情や気持ちを自由に表現していく場にしていく。」

絵を描くことによって、子どもたちの希望を引き出すこと、また描くことで心にある気持ちを表現していくことは、子どもたちにとって重要な心のケアになります。実際に、絵を描く時間では、描くことに夢中になる子どももいれば、友達と話しながら手を進める子どももいて、子どもそれぞれのペースで描いていました。夏休み以降、久しぶりのまなび一ぱということもあり、普段なかなか会話することがない大学生のお兄さんやお姉さんと話すことを楽しみにしている子どももいます。「俺、ヘリコプター好きなんだー」とヘリコプターを描く1年生。「自衛隊が助けてくれたんだよね」と震災当時のことを今も話します。

ある子どもは、「学び一ぱ楽しい。今日来てよかった。休みだとなかなか友達と会えないから」と友達と会えることを楽しみにしている様子でした。また、最終日には、子どもたちから鶴見大学の学生たちに宛てた寄せ書きを作り、今年卒業する6年生は、「中学校にも来てね」とメッセージを残していました。

子どもたちの絵を一冊の絵本に

春には、参加した子どもたちが描いた絵を文集として、小学校や子どもたち一人一人に届けていく予定です。また文集とは別に、いくつかの絵に物語をつけて、一冊の絵本を作り、大谷小学校の子どもたちの描く未来として形にしていければと思っています。



子どもたちから絵を受け取る SVA 職員



夏に続き参加した鶴見大学の方も。

本件に関するお問い合わせ先

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 (SVA)
〒160-0015 東京都新宿区大京町 31 慈母会館 2、3 階
Tel:03-6457-4586 FAX:03-5360-1220 E-mail:pr@sva.or.jp 担当:鎌倉
<http://www.sva.or.jp/>